

各科のあゆみ

〈全日制課程〉

工業化学科
建築科
土木科
電気科
情報技術科
電子機械科

〈定時制課程〉

電気科
建築・土木科

自動車科の思い出

特集 旭工スタウト再生プロジェクト

全日制課程

工業化学科

1 教育内容

学科の目標

工業化学に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させ、職業人として必要な人間性を養い、環境に配慮したもののづくりの実践力を育てる。

教育課程表（令和三年度入学生）

普通科目（四七〇四九単位） ※印は選択科目			
国語総合	五単位	化学基礎	二単位
現代文A	二単位	生物基礎	二単位
世界史A	二単位	体育	七単位
地理A	二単位	保健	二単位
現代社会	二単位	美術I	二単位
数学I	三単位	C英語I	三単位
数学II	四単位	C英語II	四単位
数学B※	二単位	英語表現I※	二単位
物理基礎	二単位	家庭基礎	三単位



専門科目（三八〇四〇単位） ※印は選択科目

工業技術基礎	二単位	工業化学	九単位
課題研究	三単位	化学工学	五単位
工業化学実習	二単位	地球環境化学	三単位
情報技術基礎	二単位	地域産業と化学※	二単位
生産システム技術	二単位	企業実習※	二単位

主な施設

化学反応実習室一	（一五八㎡）
化学反応実習室二	（九九㎡）
工業計測実習室	（九九㎡）
物理計測実習室	（一一五㎡）
化学計測実習室	（二〇六㎡）
単位操作実習室	（二七〇㎡）
プラント実習室	（二七八㎡）
天秤室	（四〇㎡）
製図室	（二四九㎡）

二十年の歩み

平成二四年度（二〇一二年度）
三年担任、野田先生。科長は庄司先生。
平成二五年度（二〇一三年度）

ものづくりコンテストで橋本彬君、全道優勝を果たし香川県で実施された全国大会に出場。

野田先生ご退職。

三年担任、嶋田先生。科長は松山先生。

工業化学教育研究会事務局校。

平成二六年度（二〇一四年度）

畠山先生ご着任。

ものづくりコンテストで内田葵唯さん全道優勝を果たし岩手県で実施された全国大会に出場。

実習中の保護メガネ着用始まる。

化学反応実習室一・二の実験台入れ替え。

三年担任、浦木先生。科長は安藤先生。

工業化学教育研究会事務局校2年目。

平成二七年度（二〇一五年度）

間口削減に揺れる。

庄司先生ご退職。

三年担任、庄司先生。科長は安藤先生。

平成二八年度（二〇一六年度）

篠塚先生ご着任。

ものづくりコンテスト全国大会、札幌で開催。

三年担任、中川先生。科長は安藤先生。

平成二九年度（二〇一七年度）

三年生の小石川義幸君、國學院短大主催創作コンクール短歌部門で最優秀の海老沢賞受賞。

ドラフトチャンバー更新。

子供たちを対象にした科学実験ショーの取り組み始まる。

森先生、苫小牧工業高校へご転出。

三年担任、畠山先生。科長は安藤先生。

平成三〇年度（二〇一八年度）

赤穂先生ご着任。

三年生の上見七桜さん、高校生ビジネスア

イデア甲子園で特別審査委員賞受賞。
厚真で大きな地震。全道ブラックアウト。
インターシップ2日間で中止。

前田先生、札幌琴似工業高校へ転出。

三年担任、久澤先生。科長は畠山先生。

平成三十一年度（二〇一九年度）

表山先生ご着任。

三年生の高田遙花さん、高校生ビジネスアイデア甲子園で見事グランプリ受賞。

令和二年二月、新型コロナウイルスが国内で流行しはじめる。

三年担任、篠塚先生。科長は畠山先生。

令和二年度（二〇二〇年度）

新型コロナウイルスの影響を考慮し、インターシップ中止。

工業化学科としては珍しく、体育系行事で活躍。旭工オリンピック初の総合優勝。スウェーデンリレーでも大会新記録。

工業化学科二次募集実施。

三年担任、安藤先生。科長は畠山先生。

令和三年度（二〇二一年度）

高速液体クロマトグラフ更新。ICP発光分光分析装置新規導入。

二七日間連続真夏日。

今年もコロナウィルスの影響を考慮し、インターシップ中止。

ZOOMによるオンライン授業実施。

三年担任、浦木先生。科長は松山先生。



小さい子供たちに科学に興味をもってもらおうと始めた科学実験ショー

左：サイバル 右：神楽児童センター

三 過去三年間の主な進路 就職（道外）

AGC ENEOS 旭化成 出光興産
川崎化成工業 コーリツ コスモ石油
埼玉県警察 昭和電工 タマポリ
東邦化学工業 トヨタ自動車 日鉄住金環境
日本触媒 日本ブチル 日本冶金工業
富士石油 丸善石油化学 三井化学

（道内）

出光プラントック北海道 NKユニテッド
片倉コープアグリ 極東高分子
士別地方消防事務組合 日鉄テクノロジ
北海道川崎建機 北海道旅客鉄道
ヤマザキ製パン 陸上自衛隊

（管内）

旭川計量機 上原ネームプレート工業
エア・ウオーター北海道 荏原環境プラント
片倉コープアグリ 竹本容器 テクノス北
海道 当麻農業協同組合 ピッチ&パッチ
北海道エネルギー レンゴー

進学

旭川大学 北見工業大学 札幌大学 北翔大学
北海学園大学
旭川高等看護学院 旭川高等技術専門学院
北都保健福祉専門学校 北海道医学技術専門学校 他、多数の専門学校

建築科

一 学科の目標

建築に関する基礎・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における建築の意義や役割を理解させるとともに、建築技術や環境問題など就業体験を通じて、主体的に判断し解決する態度を育て、社会で実践できる技術者を育成する。

二 教育課程の変遷

教育課程の大きな変革は建築法規が平成23年から平成25年まで選択教科だったのが、平成27年からは必修となり現在に至ります。選択科目の変革は建築法規↓建築施工↓インテリア装備と変わり令和4年度より建築施工になります。

三 教職員の異動

平成25年3月	小野 和幸	再任用終了
平成25年4月	西田 孝志	指導実習助手として北見工業高校より赴任
平成27年3月	小川 真輝	小樽工業高校へ転出
平成27年4月	兼子 敦	実習助手として新採用
平成29年3月	河合 亮一	美唄尚栄高校へ転出

四 ものづくり大会

平成29年4月	長谷川 哲哉	教諭として留
平成31年3月	西田 孝志	定年退職
	兼子 敦	釧路工業高校へ転出
平成31年4月	松岡 祐介	実習助手として釧路工業高校より赴任
	相津 宏輔	実習助手として新採用
令和2年3月	堂向 達也	定年退職
令和2年4月	笠木 元太	教諭として名寄産業高校より赴任
令和4年3月	高島 浩	小樽未来創造高校へ転出
令和4年4月	西川 聡仁	教諭として名寄産業高校より赴任

平成25年6月	瀧田 陽平	優良賞
	川端 丈生	大会参加
平成26年6月	川端 丈生	大会参加
	渡辺 剛輝	大会参加
平成27年6月	渡辺 剛輝	大会参加
	山田 隆弘	大会参加

平成28年6月

山田 隆弘 優秀賞(全国出場)
小神 健 大会参加

平成29年6月

佐藤 美優 優良賞
和田 博文 優良賞

平成30年6月

福田 汐音 大会参加

令和元年6月

松田 旭 大会参加
三上 航平 大会参加

令和2年

大会中止

令和3年6月

菊地 夏光 最優秀賞
(全国出場・敢闘賞)
今野 結人 大会参加



五 全道卒業設計優秀作品

平成25年3月

松本 明人 銅賞

平成27年3月

山内 翔馬 銀賞

平成28年3月

折尾 渉 銅賞

平成29年3月

奥村 玲菜 金賞

令和元年3月

石原 慶一・山崎 梨那 銀賞

令和2年3月

三上 航平 銅賞

令和3年3月

長谷川嵩人 金賞

伊藤 大智 銀賞

六 各種大会

平成24年度

工業クラブ大会課題研究発表大会

環境奉仕大賞

令和元年

工業クラブ大会課題研究発表大会

アイディア大賞

令和2年

産業教育意見・体験発表大会

吉田 叶 奨励賞

星槎道都大学主催設計コンペ

倉重由梨亜 奨励賞

北海道主催デザインコンクール

天池 夏稀 佳作

七 過去三年間の主な進路（五十音順）

就職 〈道 外〉

浅沼組 鹿島クレス

大成設備 西原衛生工業所

〈道 内〉

伊藤組土建 岩倉建設 岩田地崎建設 砂子組

田中組 土屋アーキテクチュアカレッジ

北海道旅客鉄道 北海道開発局 陸上自衛隊

奈井江町役場

〈管 内〉

旭川市役所 荒井建設 岸田組 こまいホーム

新谷建設 創明建築設計事務所 高組 谷脇組

東和建設 中原建築設計事務所

橋本川島コーポレーション 畠山建設 ハンズ

廣建築設計事務所 廣野組 盛永組 吉宮建設

進学

青山建築デザイン医療事務専門学校

旭川高等技術専門学院 旭川大学 駒澤大学

星槎道都大学 日本工学院北海道専門学校

千葉工業大学 北海学園大学 北海道科学大学

北海道情報大学 北海道武蔵女子短期大学



土木科

一 学科の目標

土木に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における社会基盤整備の意義や役割を理解させると共に、自然環境と調和のとれた土木技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、国土の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

二 土木科を取り巻く10年の状況

現在も旭川市のみならず全国的に建設技術者・建設技能者の不足が問題となっている。原因とされるのは、第一に平成二十四年、政権交代によりバブル以降減額されてきた公共事業に充てられる資金が増額されたこと。第二に東日本大震災をはじめとする災害による町の復興のためと公共物の劣化による事故の復旧のため。第三に東京オリンピック開催のための工事などが同時期に始まったためとなっている。また、団塊の世代の退職が増え技術の継承のため土木技術者の育成が急務となった。

三 土木科の取り組み

学科の目標に基づき、土木技術者育成のためキャリア教育の充実に努めてきた。一学年

より進路実現のため多くの学びを進めてきたが、「北のけんせつ担い手」育成会議（旭川開発局・上川振興局・旭川市役所・旭川建設業協会・上川調査設計協会）によるご協力のもと、土木説明会・現場見学会・測量に係わる出前授業・インターンシップと充実した体験が多くの生徒の力となっている。関係各位にご協力感謝申し上げます。

本校においては進路指導部による「卒業生企業説明会・合同HR受験報告会」等の計画的な進路教育が進められている。



【新東神楽橋上部工にて】

また、教育課程に基づき授業や実験実習が行われ、特に測量実習では神楽岡公園でトラス測量や路線測量を実施し、OBや卒業生からの話からも記憶に残るものになっている。つぎに生徒個々の職業人としての意識改革と個々の自信と成長を促すため、多くの資格取得が進められてきた。中でも土木科で取得できる測量士補はここ5年間で30名あまりが合格している。また、高校生が受験できるようになってから全員受験を30年近くに渡って続けてきた、2級土木施工管理技術検定試験の合格率は過去10年平均で88%、過去5年平均で96%と年々向上している。



【神楽岡公園・測量実習風景】

今年度より名称も変わり「2級土木施工管理技士補」となり国家資格となった。令和3年度は100%の合格率であった。全国工業校長会で進めているジュニアマイスター顕彰もここ5年ではほとんどの生徒が受賞できるようになってきている。生徒一人一人が自信をつけ進路実現を果たす事が出来ていると考えている。



【2級土木施工管理技術検定全員合格】

四 教職員の異動（六十周年史より）

平成十二年度

四月 清水貞雄教諭・白野勝義教諭・

佐藤信哉教諭・浦田麻衣教諭・

渡邊茂雄実習助手・宮川淳実習助手

土木科六名の先生方で授業が行われる。

平成十三年度

三月 浦田麻衣教諭 函館工業高へ転出

平成十四年度

四月 鈴木悟教諭 新任教諭として転入

三月 白野勝義教諭 札幌工業高教頭へ転出

平成十五年度

四月 角田竜二教諭 滝川工業高より転入

三月 清水貞雄教諭 退職

平成十六年度

四月 堀澤秀之教諭 留萌千望高より転入

平成十七年度

三月 鈴木悟教諭 札幌工業高へ転出

三月 佐藤信哉教諭 北見工業高へ転出

平成十八年度

四月 井内啓人教諭 滝川工業高より転入

本多和也教諭 新任教諭として転入

宮澤透実習助手 工業化学科より転入

三月 渡邊茂雄実習助手 退職

平成二十一年度

三月 本多和也教諭 北見工業高へ転出

平成二十二年

四月 佐藤靖尚教諭 北見工業高より転入

平成二十三年

三月 角田竜二教諭 退職

平成二十四

四月 伊藤智教諭 釧路工業高より転入

平成二十八

三月 宮澤透実習助手 札幌琴似工業へ転出

平成二十九

四月 山田聖治実習助手 定時制より転入

三月 佐藤靖尚教諭 滝川工業高教頭へ転出

三月 山田聖治実習助手 室蘭工業高へ転出

平成三十年

四月 松尾健志教諭 臨時教諭として転入

椎野泰彦実習助手 釧路工業高より転入

三月 松尾健志教諭 室蘭工業高へ転出

令和元年

四月 谷勝利教諭 北見工業高より転入

三月 宮川淳実習助手 退職

令和二年

四月 山本祐介実習助手 苫小牧工業より転入

三月 谷勝利教諭 退職

三月 山本祐介実習助手 札幌工業高へ転出

令和三年

四月 笹木裕生教諭 臨時教諭として転入

十河翔太実習助手 北見工業高より転入

電 気 科

〔教育目標〕

電気に関する基礎的・基本的な知識や技術・技能を習得させる。社会活動・生産活動及び自然環境における電気技術の果たす役割を理解させ、積極的・創造的に問題解決できる工業人を育てる。

〔重 点〕

- ・資格取得に力を入れ、人間性豊かな職業人の育成。
- ・ものづくりを通じて、知識・技術・技能を習得する。

〔取得できる資格〕

- ・第三種電気主任技術者
- ・第一種電気工事士
- ・第二種電気工事士
(H26年度卒藤田クラス全員合格)
(R元年度卒福澤クラス全員合格)
- ・工事担任者
- ・2級電気施工管理技術者
- ・消防設備士
- ・危険物取扱者
- ・計算技術検定(1～3級)
- ・情報技術検定(1～3級)



R元年度卒福澤クラス



R3年度出前授業[高所作業車体験]



現地実習



R3年度出前授業[イルミネーション設置]



〔主な施設・設備〕

電気磁気実習室(158㎡)	シンクロスコープ、磁束計、各種ブリッジ、電流計、電圧計、電子電圧計、照度計、エプスタイン装置、電力計
計測実習室(158㎡)	TV実験装置、各種増幅器、発振器、直流電源、電流計、電圧計、シンクロスコープ
電気機器実習室(213㎡)	交流・直流電動機、交流・直流発電機、各種トランス、配電盤、電気動力計、高圧試験装置
自動制御実習室(85㎡)	磁気増幅器、球型光度計、X-Yレコーダー、パーソナルコンピュータ、列車・エレベータ制御実習装置、模擬送電線実験装置
工作工事实習室(233㎡)	電気溶接機、ボール盤、グラインダ、電気工事作業盤
製図室(128㎡)	情報実習室B

〔ジュニアマイスター顕彰〕

	特別表彰	ゴールド	シルバー
平成24年度	—	12名	15名
平成25年度	—	23名	13名
平成26年度	—	26名	9名
平成27年度	—	18名	17名
平成28年度	—	25名	14名
平成29年度	5名	30名	9名
平成30年度	1名	22名	12名
令和元年度	1名	11名	14名
令和2年度	—	1名	12名
令和3年度	—	12名	5名

〔工業クラブ関連〕

平成二四年度

・ものづくりコンテスト北海道大会

電気工事部門 第三位

平成二七年度

・ものづくりコンテスト北海道大会

電気工事部門 最優秀賞

・第15回高校生ものづくりコンテスト

全国大会（大分）電気工事部門 出場

平成二八年度

・ものづくりコンテスト北海道大会

電気工事部門 優秀賞

・第16回高校生ものづくりコンテスト

全国大会（北海道）電気工事部門 出場

平成二九年度

・ものづくりコンテスト北海道大会

電気工事部門 優秀賞

・第12回若年者ものづくり競技大会（名古屋）

電気工事職種 敢闘賞

平成三〇年度

・ものづくりコンテスト北海道大会

電気工事部門 最優秀賞

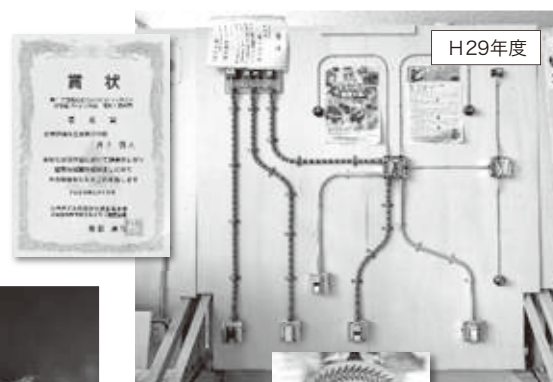
・第18回高校生ものづくりコンテスト

全国大会（名古屋）電気工事部門 出場

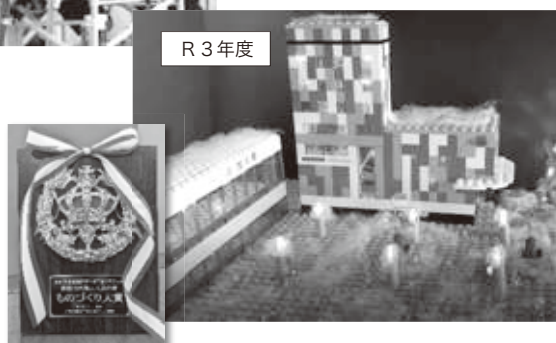
令和三年度

・第40回北海道高等学校工業クラブ大会

課題研究発表大会の部 ものづくり大賞



R3年度



情報技術科

情報技術科では、コンピュータについての基礎的・基本的な原理を学び、ネットワークやコンピュータ制御などの応用的な技術について学ぶ学科である。

一 教育内容

〈教育目標〉

情報技術に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、めざましく発展する情報社会における技術の変化に主体的に対応でき、情報技術の諸問題を合理的に解決する応用力と創造性豊かな技術者を育てる。

〈重点目標〉

- 1 資格取得、検定試験指導の充実。
- 2 各種大会への積極的な参加。

〈教育課程〉 (令和3年度入学生)

科目	企業実習										合計 単 位
	工業 技術 基礎	課題 研究	情報 技術 実習	情報 技術 基礎	電気 回路 制御	電子 計測 技術	通信 技術	プログラミング 技術	ハードウェア システム 技術	コンピュータ システム 技術	
学年	1年	3		2	4			2			11
	2年		3	3	3			2	3		14
	3年	3	3		2	2	3		(2)	(2)	13~15
	合計	3	3	6	2	7	5	2	3	4	38~40

○()は選択科目
○「企業実習」は学校指定科目

〈主な取得資格〉

- ・ 基本情報技術者
- ・ ITパスポート
- ・ 工事担任者(AI・DD総合種、DD第1種、DD第3種)
- ・ 第一種電気工事士
- ・ 第二種電気工事士
- ・ 第二種陸上特殊無線技士
- ・ 情報技術検定(1級、2級)
- ・ 計算技術検定(1級、2級、3級)
- ・ 情報処理技能検定(表計算) 2級
- ・ 日本語ワープロ検定

二十年のあゆみ

〈大会実績〉

1 若年者ものづくり競技大会

電子回路組立て職種

年度	順位	受賞者
平成23年度	2位	榊間 公太
平成26年度	2位	菊地 優輝
平成28年度	敢闘賞	帯川 留維
平成29年度	敢闘賞	鎌田 聖士
平成30年度	銅賞	鎌田 聖士
令和元年度	敢闘賞	神野 寛太
令和3年度	敢闘賞	真鳥 純那

2 北海道高等学校工業クラブ大会

計算技術競技部門

年度	団体
平成23年度	団体10位
平成24年度	団体7位
平成25年度	団体8位
平成26年度	団体2位
平成27年度	団体7位
平成28年度	団体3位
平成29年度	団体3位
平成30年度	団体2位
令和元年度	団体2位
令和2年度	団体2位
令和3年度	団体2位

3 全国高等学校ロボット競技大会

年度	チーム
平成24年度	ベスト32
平成25年度	2チーム出場
平成26年度	2チーム出場
平成28年度	2チーム出場
平成29年度	2チーム出場
平成30年度	2チーム出場
平成31年度	ベスト32
令和元年度	ベスト16

〈過去3年間の主な就職先〉

- ・キヤノン(株)
- ・J-POWER
- ・テレコミュニケーションサービス(株)
- ・ハイウェイ・ツール・システム(株)
- ・東芝ITサービス(株)
- ・(株)NTT東日本―北海道
- ・PFU ITサービス(株)
- ・住友電気工業(株)
- ・東芝エレベーター(株) 神奈川支社
- ・アイシン・エイ・ダブリュ(株)
- ・日本製鉄(株) 君津製鉄所
- ・濱田重工(株) 君津支店
- ・山崎製パン(株)
- ・北海道電力(株)
- ・北海道電力ネットワーク(株)
- ・東芝エレベーター(株) 北海道支社
- ・セイコーエプソン(株)
- ・札幌日信電子(株)
- ・美和電気工業(株)
- ・フルテック(株)
- ・パナソニック スイッチングテクノロジーズ(株)
- ・トヨタ自動車北海道(株)
- ・北海道旅客鉄道(株)
- ・(株)SUMCO 千歳工場

・日鉄ファーストテック(株)

- ・(株)コンピュータ・ビジネス
- ・(有)ビーインフォ
- ・(株)アクロクレイン 旭川ラボ
- ・(株)ネクシス光洋
- ・北陽電材(株)
- ・(株)木本動力工業所
- ・陸上自衛隊

〈過去3年間の主な進学先〉

- ・北見工業大学
- ・北海道情報大学
- ・千葉工業大学
- ・旭川大学
- ・北翔大学
- ・東北芸術工科大学
- ・旭川大学短期大学部
- ・旭川大学情報ビジネス専門学校
- ・旭川理容美容専門学校
- ・北海道情報専門学校
- ・北海道ハイテクノロジー専門学校
- ・吉田学園情報ビジネス専門学校
- ・日本電子専門学校
- ・経専音楽放送芸術専門学校
- ・旭川高等技術専門学校

〈学級担任〉

平成23年度入学生	櫻井和禎
平成24年度入学生	小川雅和
平成25年度入学生	榎本哲史
平成26年度入学生	磯島巧
平成27年度入学生	波岡知朗
平成28年度入学生	下村幸広
平成29年度入学生	小檜山淳
平成30年度入学生	佐藤暢紀
令和元年度入学生	多奈田紘希
令和2年度入学生	坂口学治
令和3年度入学生	西野朋和
令和4年度入学生	岸下拓磨
令和4年度入学生	花田健

・データ処理実習室（令和4年1月設備更新）



電子機械科

一 教育内容

教育目標

電子機械およびシステム技術に関する基本的な知識と技術を修得させ、情報化社会における電子機械の意義や役割を理解させるとともに、複合化技術の諸問題を合理的に解決する能力と創造性豊かな技術者を育てる。

重点

- 一 実習を通して、実践的・主体的に生産技術の工夫・改善ができる能力を養う。
- 二 産業界の自動化・省力化に伴う機械・装置の高度化、システム化に幅広く対応できる能力を養う。
- 三 機械技術と電子技術の複合化によるメカトロニクス技術の能力を養う。



実習

教育課程表（令和四年度入学生）

設備システムコース				
科 目	単位	1年	2年	3年
工業技術基礎	3	3		
課題研究	3			3
電子機械実習	7		4	4
電子機械製図	9	4	2	2
工業情報数理	2	2		
機械工作	5		3	
機械設計	5		3	2
原 動 機	2			
生産技術	2	2		
自動車工学	0～2			2※
空気調和設備			2	
衛生・防災設備				2
企業実習	0～2			2※
合 計	38～40	11	14	13～15

機械システムコース				
科 目	単位	1年	2年	3年
工業技術基礎	3	3		
課題研究	3			3
電子機械実習	7		4	4
電子機械製図	9	4	2	2
工業情報数理	2	2		
機械工作	5		3	2
機械設計	5		3	2
原 動 機	2		2	
生産技術	2	2		
自動車工学	0～2			2※
空気調和設備				
衛生・防災設備				
企業実習	0～2			2※
合 計	38～40	11	14	13～15

主な施設・設備

機械加工実習室（五五四㎡） 旋盤・円筒研削盤・平面研削盤・形削盤・工具研削盤・ボール盤・横フライス盤・立フライス盤・万能フライス盤・ホブ盤・両頭グラインダ・帯鋸盤

試験計測実習室（八八㎡） 万能材料試験機・万能投影機

FAシステム実習室（二三二㎡） 関節ロボット・シーケンス・フィードバック制御実習装置

空気調和実習室（二九七㎡） 空気調和実習装置・熱交換器実習装置・冷凍実習装置・自動制御実習装置・空気機械実習装置

衛生実習室（二三二㎡） 排水通気実験装置・流体実験装置・水撃実験装置・レイノルズ実験装置

溶接実習室（二六〇㎡） ガス溶接機・アーク溶接機・溶接ロボット・半自動溶接機・スポット溶接機・シャーリングマシン

NC・MC実習室（一九二㎡） マシニングセンター（令和四年三月更新）・CNC旋盤

CAD実習室（二七〇㎡） CADシステム一式（令和四年三月更新）

製図室（一一九㎡） ドラフター

電子工作実習室（四〇㎡） プリント基板一式他電気・電子計測実習室（七七㎡） 直流安定化電源装置・デジタルハイトスタ・交流電圧計・シンクロスコープ・精密可変コンデンサ・可変誘導器・六ダイアル精密抵抗器・低周波発振器

二 科の変遷

昭和三十一年 機械課程第一学年四十名募集
昭和三十五年 機械課程第一学年八十名募集
平成三年 課題研究開始
平成四年 機械製図、実習でCADシステムを運用する。
平成六年 機械科から電子機械科に学科転換。

コース制を導入し、生産システムコース（六十名）と設備システムコース（二十名）とする。コース制に伴い、仕上組立、原動機、鍛造、鑄造の各実習室が改修されCAD、MC・NC、電子工作、FA、空気調和、衛生実習室が完成。

旭川総合鉄工団地協同組合四企業の協力の下、第三学年の現場実習を始める。

高校生ロボット相撲全国大会出場

平成七年 高校生ロボット相撲全国大会出場

平成八年 生産システムコースから機械システムコースに名称を変更。空調衛生工事業組合の協力の下、コース制にそれぞれ

平成十年 高校生ロボット相撲全国大会出場。
管工事施工技術者試験が始まる。

平成十一年 全日本ロボット相撲大会出場。

平成十二年 高校生ロボット相撲全国大会出場。

平成十三年 電子機械科二学級から一学級に削減。

平成二十年 ものづくりコンテスト旋盤作業部門で全国大会出場。

平成二十一年 CADシステム更新。三次元CADシステム、高解像度液晶プロジェクタ導入。

令和四年三月 CADシステム、マシニングセンタ、普通旋盤三台更新。



インターンシップ
(設備システムコース)

三十年の歩み

令和二年三月の自動車科閉科に伴い、電子機械科のより充実した教育内容を目指し、これまで自動車科で行われてきた教育内容を一部取り入れることを検討。

新教育課程の令和四年の入学学生から、授業では三年生で「自動車工学」の選択ができるようになり、各学年で自動車実習が一テーマずつ実施される。既に三年生でガソリンエンジン実習を行っているが、生徒は興味深く取り組んでいる。一年生で自動車整備に関わる計測作業、二年生でシャシ関係の実習を予定している。

また、高校生ものづくりコンテストでは、令和二年から旋盤作業部門、溶接競技部門、自動車整備部門の三部門に取り組んでいる。



インターンシップ
(機械システムコース)

自動車科

自動車科の思い出

自動車科は令和2年3月末をもって閉科しました。昭和33年の設置から62年間の歴史に幕を下ろしました。これまでお世話になった多くの方々に感謝し、ここに閉科記念誌から抜粋した、同窓生と旧職員の記録を残します。

「自動車科閉科式」

令和2年1月31日（金）13時30分より

北海道旭川工業高等学校体育館にて

「自動車科を語る会」

令和2年1月31日（金）19時00分より

星野リゾートOMO7旭川にて



「我が自動車科」

（昭和51年卒業） 丘島 悦広

我が自動車科が閉科したことに寂しさを感じ

ながら昔を振り返りたいと思います。

私は第16期生として昭和48年に入学しました。まだ当時は新聞にも氏名が発表された時代でその中に二人の（I明美・K瞳）名前を見つけた女子が居ると楽しみに登校したら教室には男ばかり、聞けば明美と書いて、あけよしと読み、瞳君は髭面のおじさん少しガツカリした記憶がありながら39名の高校生活のスタートでした。聞けば開設当初専用実習室はなく機械科の実習室をお借りして居たそうです。その後シャシー工場・エンジン工場が竣工されたが渡り廊下が無く雨降りの日は粘土混じりの悪路に悩まされながら行き来したそうです。教材が市内の自動車整備事業者より寄贈されたV2気筒のエンジンが唯一のものであったそうです。35年に自動車分解整備事業の認定を受け試験工場が完成となり名実と共に立派な自動車科となった歴史があったそうです。我々が入学した時には充実した施設設備があり十数台の実習車（富士重工からの寄贈新車で左ハンドルのスバル360・自動車学校の廃車でいすゞベレル・観音開きのクラウン・後に触れますがスタウトトラック等）や分解組み立て用のエンジンを一人一台で実習を行なえたり、公害問題で排ガス規制が始まった年代でもあり新しい排ガスステータリ機器が導入されたり第一期生とは比べものにならない恵まれた実習環境でした。これも偏に旭工自動車科に思いを寄せて頂いた諸氏先輩方のお陰と感

謝申し上げます。私は51年に自動車科を卒業し、国鉄に就職しましたがSLは無くDL（ディーゼル）の時代で、自動車科を卒業し整備士として社会への一歩を歩み始めました。クラスメイトは自動車会社就職し最初に貰った夏のボーナスはAトヨタに就職したI君の方が多く何で自動車業界に就職しなかったんだろうと後悔をした年でもありました。

私は国鉄を退職し平成2年から母校で勤務することとなり28年間お世話になりました。その間沢山の思い出がありましたが退職1年前に自動車科の後輩達が課題研究で「スタウト」をレストアし札幌モーターショーに展示されることとなり微力ながら欠品部品の調達等お手伝いをさせて頂いた事が最高の思い出となりました。

我が自動車科は閉科となり寂しい思いをしています。我が自動車科卒業生各位のご健勝とご活躍そして母校の発展を心よりご祈念し今後も同窓会役員として支援をしていきたいと思っています。

「懐かしい思い出」

（昭和36年〜昭和62年） 橋本 清生

日本の工業界と地域の期待を担い自動車科が設置され、幾多の社会情勢の中で、今度の閉科は誠に残念、感慨無量があります。

昭和36年、第1期生が、卒業と同時に新前の教員として着任し、成田校長より「先生は自動車科で採用しました。」自動車科で頑張ってく

ださい、突然の言葉で喫驚、自動車科設置すら知らずいたって不勉強、機械工学を専攻したので自動車科は無理です、話しも聞かず校長室を飛び出し校長も喫驚、宮本科長さんがこれからは自動車の時代ですよ1年間お願いします。

さて、教壇に立っても運転免許もない、整備士等の資格もない、教員の免許さえあればと思っていたがそんな生易しいものではなかった。

グラウンドでの運転練習、日曜日はトヨタ生産整備工場での見習実習、そして夜3級2級整備士受験の為に講習、検査員の資格、認証工場の車検整備申請、生徒の3級整備士の受験ができるようになりました。

昭和39年、第7期生を始め5度の担任、当時自動車科受験生は127名、1割増の44名の合格でした。懐かしい実習は火曜日5時間目、お世話になった車は観音開きのクラウン、屋根のないセドリック、マツダ三輪(つの)、三菱のジープ、キャブライト、コロナ、ブルーバード、半世紀前に廃車した「スタウト」を現在の生徒さんが手直し再生して札幌モーターショー(札幌ドーム)で展示され懐かし卒業生と見てきました。

旧校舎、現校舎、新前の私を指導してくれた諸先生、自動車科を卒業した皆さん。世界に自動車走っている限り、旭工自動車科を忘れないでいましょう。

「26年間ありがとう」

(平成6年(令和2年) 島貫 勇次

平成6年より旭工に勤務し、再任用の3年目を終えました。26年間お世話になった自動車科の閉科を見届け旭工を去ることになりました。着任した当時、職員の平均年齢は50才を超えており、ベテランの先生ばかりに驚いたことを思い出します。

十数年前より適正間口配置計画の見直し案が出るたび、該当していないことに胸をなで下ろし、いずれは来ると覚悟しつつも現実のこととなり残念で仕方ありません。あっけなく、北海道における最後の公立高校自動車科は幕を閉じてしまいました。

最後の3年間、1学年ずつ減る寂しさの中、実習室を整理するたびに色々な思い出が頭をよぎり、懐かしさとともに時の流れを身にしみて感じました。学校祭、遠足、工業クラブ等、卒業していった生徒たちの顔が次からつぎへと思ひ浮かんでいますが、そんな生徒たちも今では、社会の中心でしっかり活躍中との便りが多く、本当に誇らしく嬉しく思っています。

旭工ならではの思いは、ロボット相撲に長く関わったことです。特に富士ソフトとの窓口を担当することになり、一番大変だったことは審判員の手配でした。勝敗を判定する主審・副審は、講習会に参加してもらい、全日本ロボット相撲大会公認審判員の資格取得が必要であった

ことです。校内で講習会を開き、専科・普通科問わず全職員に協力していただきましたが、特に自動車科の先生方には、全員が審判員資格を取得し、緊急事態にも対応できるバックアップを常にもらい長い間支えていただきました。本当にありがとうございました。

もう一つは、旭工として5度目の甲子園出場を果たした平成24年、第94回大会に帯同したことです。8/3より12日間、北海道チームの定宿であるグリーンリッチホテルに滞在し、試合当日の応援の準備や協力をいただく団体、学校との連絡・調整等の挨拶回りをしました。試合は、大いに盛り上がり旭工初の延長戦に突入、初勝利を目前に延長11回力尽き勝ち抜くことはできませんでしたが、甲子園球場の独特の雰囲気の中で最高のプレーを見させてもらい感動したことを思い出します。

閉科にあたり何よりも願うことは、卒業生の皆さんにとって青春の一時を過ごした自動車科での3年間が、いろいろな意味でそれぞれの人生に良き思い出として残り、これからの人生の歩みの糧にしていただければということです。最後に旭工自動車科から巣立った生徒たちと、ここで活躍された先生たちの今後益々のご活躍とご多幸を心からお祈りします。ありがとう旭工。ありがとう自動車科。大変お世話になりました。

実習風景(現校舎)



実習風景(旧校舎)



旭エスタウト再生プロジェクト ～昭和46年式実習車「トヨタ スタウト」のレストア～

北海道旭川工業高等学校 自動車科



半世紀前の廃車「再生中」

エンジン分解、塗装…全て手作業

生徒たちの手で塗装が進むスタウト。12月中の完成を目指している



「今日はこの部分をきれいに塗ろう」。授業を終え、自動車科実習室に集まった生徒たちが、取り外したドアに塗料を塗り始めた。生徒たちにとって放課後に行う約2時間の修理が、昨年から春からの日課になっている。

「今日はこの部分をきれいに塗ろう」。授業を終え、自動車科実習室に集まった生徒たちが、取り外したドアに塗料を塗り始めた。生徒たちにとって放課後に行う約2時間の修理が、昨年から春からの日課になっている。

旭川工業高生が展示へ

【旭川】旭川工業高自動車科の生徒有志が、校内に放置されて動かなくなっていた半世紀前の小型トラックの再生に取り組んでいる。エンジンや傷んだ外装を手作業で直し、来年1月の「札幌モーターショー2018」で展示する。生徒たちは「時代は変わっても、ものづくりの基は人の手であることを伝えたい」と仕上げ作業に入っている。

が、昨年春、古い車が好きな当時自動車科2年の羽田太一さんが興味を持ち、修理して動かそうと考えた。担任の小池孝太教諭(40)に相談し、同級生の鹿野圭介さんを誘ってエンジンの修理に取りかかった。

15年以上放置されたスタウトの車体は、燃料と空気を通せる部品の配管にガソリンが固まって詰まっていたり、エンジンを冷やすラジエーター内で冷却水がゲル状にこびりついていたり。そのままでは全く動かない状態だった。

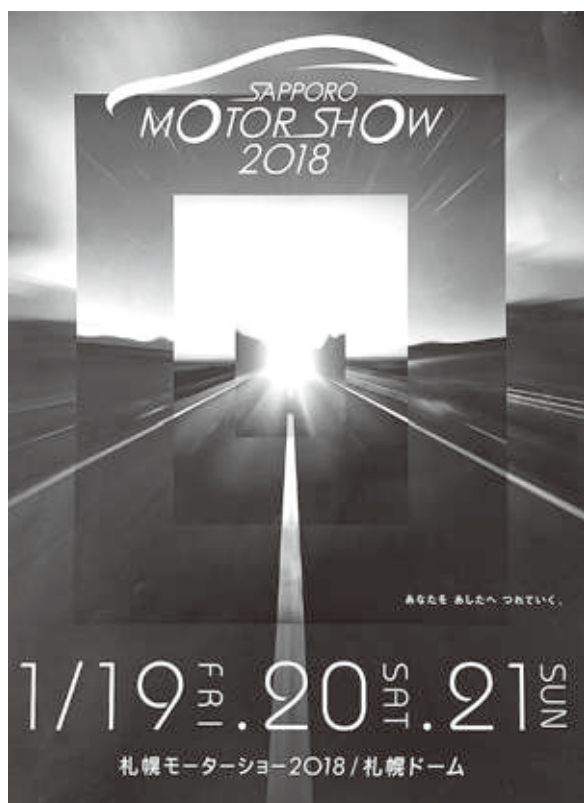
2人は約1年間かけてエンジンや車体を分解して部品の汚れを取り、磨きをかけた。交換が必要だったエンジンの部品は、メーカーに問い合わせた上で残っていた部品を取り寄せ、燃料用ホースは別の部品で代用。エンジンが再び、動くようになった。

小池教諭は「室内に置かれていたため、金属のさびが凄まじかった」と話す。今年の春からは同級生4人が助っ人に加わり、へこんだ車体の板金や塗装に着手。授業で学ばない技術のため、トヨタ車を販売する

旭川トヨタ自動車(旭川)の協力を仰ぎ、同社整備工場に繰り返し通った。スタウトは現在、古い塗装がはがされ、塗り直しが進む。その後、ドアやハンドルを取り付け直せば完成だ。

札幌市豊平区の札幌ドームで来年1月19、20、21日に開かれる「札幌モーターショー2018」での展示は、羽田さんが「僕らの取り組みを大勢に知ってほしい」と実行委に手紙を送ったことで実現した。羽田さんは「車の技術は進化し続けるが、今回の再生を通してどんなに技術が高まっても車を創り出すのは人の手と感性だ」と話す。

旭川工業高自動車科は少子化の影響で来春、募集が停止されて電子機械科に統合され、自動車科は現在の1年生が卒業する20年春に廃止される。小池教諭は「今回の経験が生徒たちの将来を支えるやりがいになってほしい」と願う。レトロな外観のスタウトが集まるモーターショーで異彩を放つ。



【北海道新聞(夕刊)平成29年12月19日】



旭工高生の「スタウト」再生 修復完了 会場へ搬送

札幌モーターショー
旭工高生が取り組んでいたバンネット型トラック「スタウト」の修復が完了し、16日、札幌モーターショー会場へ搬送された。この車は、昭和30年代前半に製造されたもので、当時の学生が憧れていたという。修復に当たっては、当時の写真や資料を参考に、色やパーツを再現した。修復完了後、会場へ搬送された。この車は、昭和30年代前半に製造されたもので、当時の学生が憧れていたという。修復に当たっては、当時の写真や資料を参考に、色やパーツを再現した。修復完了後、会場へ搬送された。

ワクワク満載 未来へ発車

初日にぎわう会場



最新の車が並ぶ中、旭川工業高生有志が展示したバンネット型トラックはレトロな外観で注目を集めた

札幌モーターショー
札幌市豊平区の札幌ドームで16日に開幕した「札幌モーターショー2018」(北海道新聞社など主催)で、国内外27社38ブランドの189台が並び、来場者が最新技術や華やかなデザインに見入った。ミニ四駆の競走大会など関連イベントもにぎわった。(1面参照)

国内外の27社38ブランド 競演

4回目となる札幌モーターショーは札幌市豊平区の札幌ドームで19、21日に開かれる。国内外の27社38ブランドがコンセプトカー(試作車)や最新型の市販車を展示する。前売り券は一般1100円(当日券1300円)、中高生500円(当日700円)。札幌ドーム、19日から前売り券も販売中
0円。小学生以下は無料(保護者同伴が必要)。北海道新聞旭川支社(旭川市4の9、旭川北浜ビル6階)やローソンチケット、セブンイレブンなどで販売している。問い合わせは実行委事務局011・210・5730へ。

来、またブレーキなどに直す余地があるので、というものの、ほぼ車検に合格するレベルまでは仕上げたと期待する。モーターショーには「待っている」。(佐藤元也)

【北海道新聞 平成30年1月17日】

「懐かしいね」と多くの人が声を掛けてくれたと喜んでた。ミニ四駆大会は、翌日運んでにぎわった。札幌市白石区の自営業野月忍さん(36)は長男匠君(11)、長女愛さん(8)と参加し「子どもも楽しめて良かった」と話した。ショーは21日まで。20、21の両日はキーホルダー作りができる。「親子でものづくり体験 夢工房」、小型センサーを搭載して自動走行するマイコンカーの大会なども行われる。

【北海道新聞 平成30年1月20日】



定時制課程

電気科(定時制)

学科の目標

電気に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、電気技術の諸問題を合理的に解決する応用能力と創造性豊かな技術者を育てる。

電気科の近況

本校の定時制電気科は昭和三十六年に設置され現在に至っております。昔の生徒は仕事をしながら勉学にも励むという状況でしたが、現在は仕事を持たないで入学してくる生徒の方が多くなりました。もちろん仕事に励む勤労意欲のある生徒もいますが、中学校時代不登校だった生徒や、いじめにあっていた生徒が入学してくることが多くなりました。

ゲームが進化して、オンラインの仲間や敵と遊べるようになりました。不登校だった生徒の話の聞くと、ゲームは学校の時間ではなく、夜中にやっていることがほとんどです。クラスメイトが多様な人たちが構成されているのは、今も昔も変わりませんが、柔順な生徒たちの割合は増えてきたので、ものづくり教室、おもちゃの修理活動、出前授業などは

実施しやすくなっています。これらの活動は生徒の考え方を前向きにし、進路選択の重要なきっかけにもなっています。

日々の実習は、電気実験をはじめ課題研究や情報実習を取り入れることにより、デジタル分野にも対応できる視野の広い技術者を育成するよう努力しています。

職員、保護者、職場の雇用主との連携によって、生徒の指導に力を入れております。

主な実習内容

工業技術基礎

各種実験装置の取り扱い、電気基礎実験、電気工作、パソコン実習、電気工事実習

実習

変圧器の実験、各種発電機・電動機の実験、電気工事実習、各種半導体の実験、論理回路の実験、電子回路の実習

課題研究

安定化電源の製作、I・Cを用いたアンプの製作等

主な進路

就職先

北海道立学校実習助手、東邦電設株式会社、

西山坂田電気株式会社、株式会社朝日電機製作所、(財)電気保安協会、ほくでんサービス株式会社、東芝ホクト電子株式会社、北海道タツノ電気株式会社、宮武電機株式会社、北海道電気工事株式会社、株式会社ドウデン、株式会社Gユアササービス、株式会社電業、株式会社繁富工務店、石森電気工事株式会社、旭川電力設備株式会社、龍後設備株式会社、株式会社東川電気工事、旭栄ミヤコ電業株式会社、陸上自衛隊その他道外企業

進学先

北海道立旭川高等技術専門学院、北海道情報処理専門学校、旭川大学情報ビジネス専門学校、札幌科学技術専門学校、

主な取得資格

第三種電気主任技術者認定校(但し卒業後経験三年) 第一種・第二種電気工事士(卒業後は筆記試験免除) 工事担任者(卒業後は電気通信技術の基礎の試験科目免除) 二級電気工事施工管理技士補、情報処理技術者ITパスポート試験 消防設備士、危険物取扱者、計算技術検定、情報技術検定 基礎製図検定

建築・土木科(定時制)

学科の目標

建築、土木に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、健全な心身を育み信頼される工業人の育成を図る。

昭和二十三年に本校に設置された「建築科」および「土木科」と平成二十六年に設置された「建築・土木科」は、令和三年度の卒業生を含め、二千六百九十七名(内女子四十名)という、多くの卒業生を社会に送り出しています。卒業生は地元旭川をはじめ、全国各地の建設現場や土木現場等で活躍されています。

近年の入学人数の減少による学科再編に伴い、平成二十六年度入学者より「建築科」および「土木科」が募集停止となり、「建築・土木科」が設置されました。平成二十九年度には完成年度を迎え、再編前では十二名体制だった職員も再編後は八名体制となりました。

建築・土木科のコース制に伴い一学年では、専門教科の実習と製図において二班に分けてローテーションで各コースの特色ある授業を受け、数回の面談等を実施し生徒の自主性を尊重しながら、二学年より分かれるコース選択の指導を行っています。二学年からはそれぞれ専門性を高めるべく日々努力を重ねています。

建築・土木科では、一学年より建築・土木に必要な基本的知識や技術の定着に重点を置きながら、各種資格取得について取り組む指導を行っています。また、個々の学習意欲を引き出すような授業に努め、授業等を受ける基本的な姿勢、技術者として必要な礼儀や身だしなみを身につけさせるよう、日頃の学習や実習などを通し指導を行っています。

建築・土木科の近況

平成二十三年度から令和三年度の十一年間に、「建築科」「土木科」および「建築・土木科」では転入者八名、転出者十一名、退職者一名と職員の体制が大きく変わりました。入学人数においても、旭川市内中学卒業生数が減少する中、今後一層厳しい状況に置かれることが予想されます。さらなる間口削減とならないためにも、本校すべての職員が一丸となつて入学生増加への取り組みに前向きに努力していきます。

主な資格取得

- ・二級建築施工管理技術検定
- ・二級土木施工管理技術検定・測量士補
- ・乙種4類危険物取扱者・丙種危険物取扱者
- ・三級建築大工技能検定・建築CAD検定
- ・福祉住環境コーディネーター二級・三級
- ・カラーコーディネーター等

建築コース

・主な施設設備

製図実習室

平行定規、スタンド製図台、製図用各設備、製図資料

木造実習室

昇降盤、手押カンナ盤、ボール盤、自動送カンナ盤、角鑿盤、刃研機、糸鋸盤、木工工具一式、塗装用具一式、ベルトサンダー

・主な実習内容

工業基礎

ペン立て、フォトフレーム
プラランタケース

実習

一人掛椅子、ベンチ、縁台、スツール、テーブル(大・小)、サイドテーブル、ハンガーラック、ウッドバーニング

課題研究

本棚、テーブル、オーディオラック、ローテーブル、平屋建て軸組み模型



土木コース

・主な施設設備

応用力学実習室 パソコン、自動製図器

土木施工実習室 万能試験機、すりへり試験器

アスファルト試験機器、マー

シャル試験機、セメントコン

クリート試験機器

土質試験実習室 三軸圧縮試験機、CBR試験

機、締め固め試験自動ランマ、

一面剪断試験機、圧密試験機

土木製図実習室 透写製図台、万能製図台

・主な実習内容

工業基礎

コンクリート平板型枠、コンクリート平板、コンクリートの置物

ウッドバーニング

実習

細骨材の比重吸水試験、骨材のふるい分け試験、コンクリート配合

設計、含水率試験、CBR試験、土

粒子の比重試験、マーシャル試験、

針入度試験、ペーパーロケーション、敷地内閉合トラバース測量、

水準測量

セメント製品製作とリサイクル問題の調査、擁壁製作

課題研究

セメント製品製作とリサイクル問題の調査、擁壁製作

教育課程表

平成23年度～平成25年度入学生 建築科

	工業基礎	課題研究	実習	製図	情報技術	建築構造	建築施工	構造設計	建築計画	建築法規	合計単位数
1年	2			2		1					5
2年				2	2	2					6
3年			2	2		2	2	1			9
4年		2	2			2	1	2	2		11

平成23年度～平成25年度入学生 土木科

	工業基礎	課題研究	実習	製図	情報技術	測量	土木施工	土木基礎	社会基盤	合計単位数
1年	2			2	1					5
2年				1	1	2		2		6
3年			2	1		2	2	2		9
4年		2	2				2	3	2	11

平成26年度～令和2年度入学生 建築・土木科

	工業基礎	課題研究	実習	製図	情報技術	建築構造	建築施工	構造設計	建築計画	建築法規	測量	土木施工	土木基礎	社会基盤	合計単位数
1年	2			1	2										5
2年	建		2	2		2									6
	土		2	2							2				6
3年	建		2	2		1	1	2	1						9
	土		2	1							2	2	2		9
4年	建		2	2			2	1	2	2					11
	土		2	2								2	3	2	11



我が青春の旭工②

